

令和 5 年度のふりかえり

小牧市新たな学校づくり推進計画の策定

(1) 目的

問題

- 児童生徒数の減少
- 学校施設の老朽化

**将来を担う子どもたち
充実した教育環境が必要**

- ①学校施設の適正規模・適正配置
- ②子どもたちにとってより望ましい
教育環境の基本的な考え方

を整理した計画策定

Ⅱ

将来の教育環境整備の方針

(2) 背景

これまで

「学び合う学び」を中心に据えた
子どもたちの成長を支える学校づくり を実施

今後の懸念

子どもの数減少 ⇒ 学ぶ場・活動する機会
に大きな影響の可能性
学校施設の老朽化 ⇒ 改築等に多額の費用
財政圧迫を懸念

今後の課題

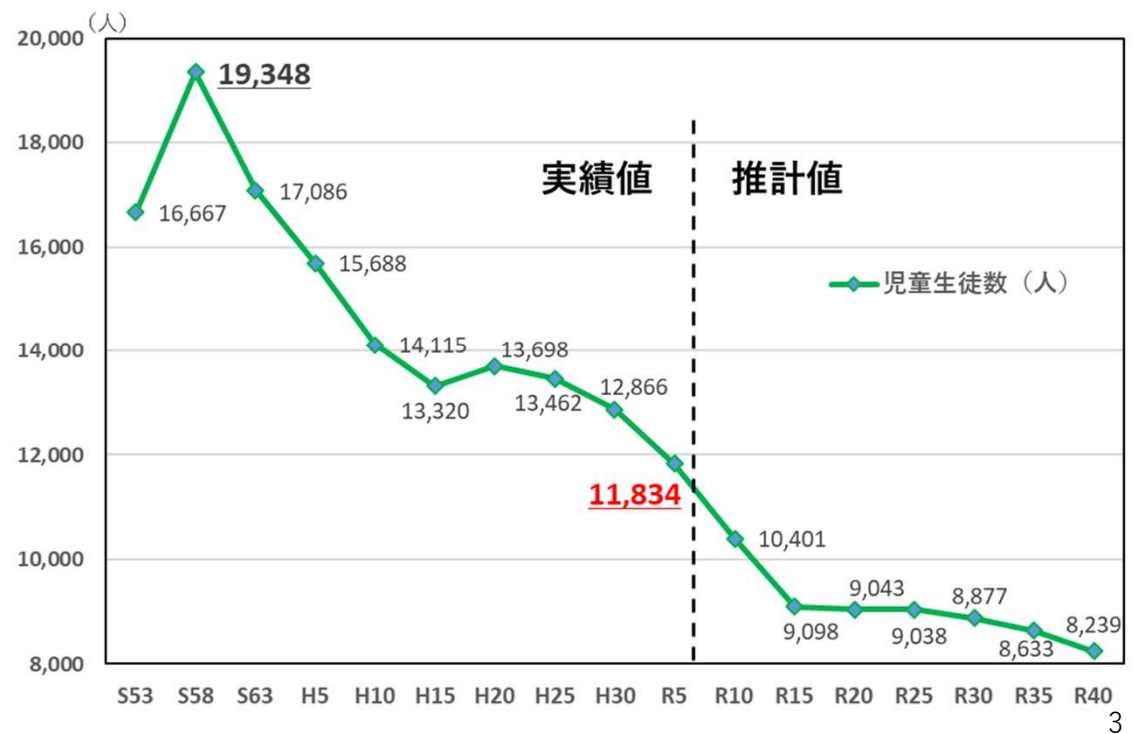
「学び合う学び」をさらに推進し、
子どもたち一人ひとりが『愛・夢・生きる力』
を育むことができるよう、
将来を見据えた環境づくりを推進

児童生徒数の減少からみる課題

(1) 児童生徒数の推移及び推計

①全体

- 昭和58年の19,348人を
ピークに減少傾向
- 令和5年には11,834人となり、
ピーク時の約61%まで減少
- 推計では、今後10年間の減少
が特に大きく、
令和15年には9,098人、
令和25年には9,038人、
令和35年には8,633人
となる見込み

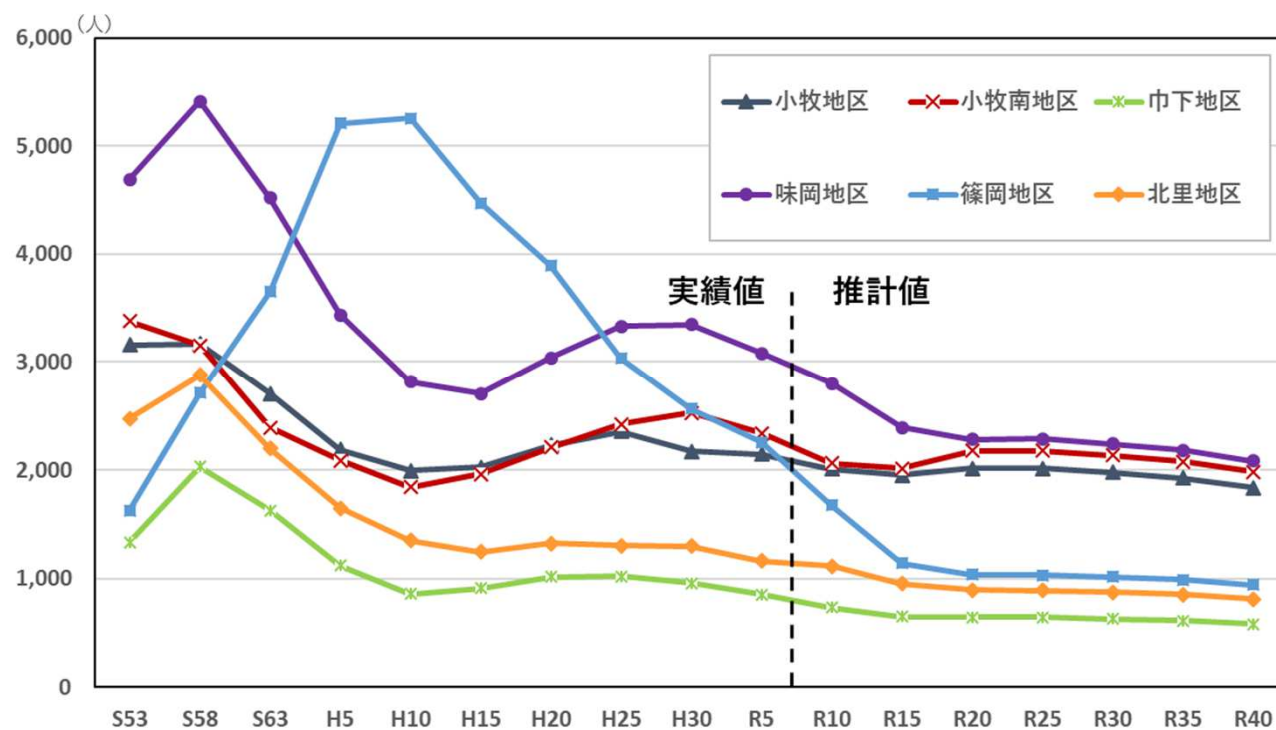


児童生徒数の減少からみる課題

(1) 児童生徒数の推移及び推計

②地域別

●特に篠岡地区で顕著な減少を予想



児童生徒数の減少からみる課題

(2) 学級数の推計

① 小学校

クラス数

学校名	R5年度							R10年度							R15年度							R20年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
小牧小	4	4	4	4	4	4	24	4	4	3	4	4	4	23	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24
村中小	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12
小牧南小	4	4	5	5	4	4	26	3	3	4	4	4	4	22	4	4	4	4	4	3	23	4	4	4	4	4	4	24
三ツ瀨小	1	2	2	2	2	2	11	1	1	2	2	2	1	9	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	2	1	7
味岡小	5	4	5	5	5	4	28	4	4	4	4	4	5	25	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24
篠岡小	1	2	2	2	2	2	11	1	1	1	1	2	1	7	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
北里小	2	2	3	3	2	3	15	2	3	2	3	3	2	15	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12
米野小	3	4	5	4	4	4	24	4	3	3	4	4	3	21	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24
一色小	3	3	3	3	3	3	18	3	2	2	3	3	3	16	3	3	2	2	2	3	15	3	3	3	3	3	3	18
小木小	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	1	1	1	1	1	2	7	1	1	1	1	1	1	6
小牧原小	3	4	3	4	4	3	21	3	3	3	3	3	3	18	3	3	3	3	3	3	18	3	3	3	3	3	3	18
本庄小	3	3	3	3	3	3	18	2	2	3	3	3	3	16	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12
桃ヶ丘小	2	2	2	2	3	2	13	1	1	1	1	1	2	7	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
陶小	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
光ヶ丘小	2	2	2	2	2	2	12	1	1	2	2	2	2	10	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
大城小	1	2	2	2	1	2	10	1	1	1	1	2	1	7	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
合計	39	43	46	46	44	43	261	35	34	36	40	42	39	226	35	35	34	34	34	35	207	35	35	35	35	36	35	211

児童生徒数の減少からみる課題

(2) 学級数の推計

②中学校

クラス数

学校名	R5年度				R10年度				R15年度				R20年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
小牧中	7	7	7	21	7	6	7	20	6	6	6	18	7	6	6	19
味岡中	7	6	6	19	6	6	6	18	5	5	5	15	5	4	4	13
篠岡中	2	2	2	6	2	2	2	6	1	1	1	3	1	1	1	3
北里中	5	4	4	13	4	4	4	12	4	3	3	10	3	3	3	9
応時中	7	7	6	20	7	7	7	21	5	6	6	17	7	6	6	19
岩崎中	5	4	4	13	5	5	4	14	4	4	4	12	4	3	3	10
桃陵中	5	4	4	13	4	3	3	10	2	2	2	6	2	2	2	6
小牧西中	3	2	3	8	2	3	2	7	2	2	2	6	2	2	2	6
光ヶ丘中	2	3	3	8	2	2	3	7	2	2	2	6	2	1	1	4
合計	43	39	39	121	39	38	38	115	31	31	31	93	33	28	28	89

児童生徒数の減少からみる課題

(3) 小規模校の課題

第1回小牧市新たな学校づくり推進計画調査検討部会（抜粋）

<人間関係面>

- 多様な他者との触れ合いが困難 ⇒高校や社会に出てから戸惑い
- クラス替えが困難、子どもの関係が固定化 ⇒人間関係のリスタート・改善がしにくい
- 自分にあった相談しやすい教員が少なくなる

<教育面>

- 多様な考えが出にくい
- 切磋琢磨ができにくい
- 部活・委員会等の多様な場の確保ができなくなる

<学校運営面>

- 教員の数が少なくなる ⇒経験の浅い教員の育成が困難
⇒病欠等での対応、学年間での協力が困難

<その他>

- PTA役員の選任が困難

児童生徒数の減少からみる課題

(4) 小牧市が目指す教育の実現に向けて

多様性の中での学びを保障

求めらるべきこと

- 性別、国籍、個性、能力、育った環境の違う多様な他者、多様な価値観の中で、思考力・判断力・表現力や、社会性・人間関係を形成する力を育む場
- 子どもたちに豊かな学びを保障するためには、全ての教育活動において、子どもたちが様々な見方や考え方、価値観、文化等の多様性に触れる機会が重要

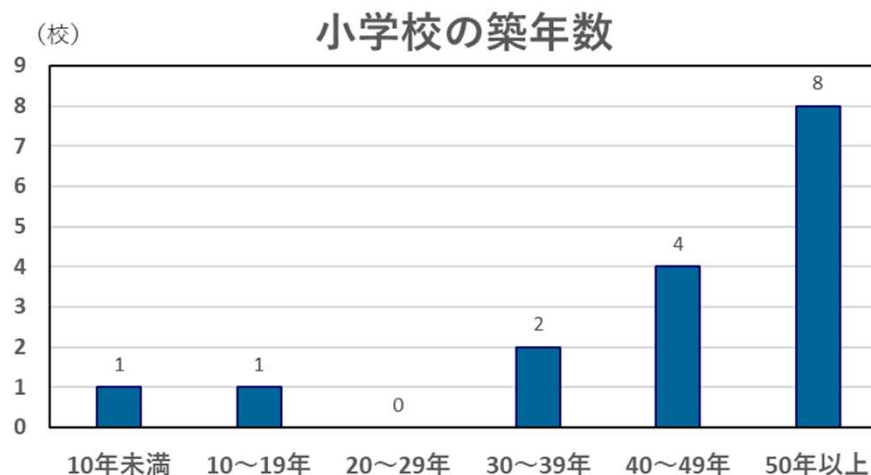
多様性に触れる・人間関係の固定化を防ぐためには、クラス替えができる
適正な学校規模を維持していく必要がある

学校施設の老朽化からみる課題

(1) 学校施設の状況

① 小学校

- 16校中8校、全体の50%が築年数50年以上を経過
- 目標耐用年数である80年を半分経過した築40年以上も合わせると16校中12校、全体の75%が老朽化による対策が必要な状況

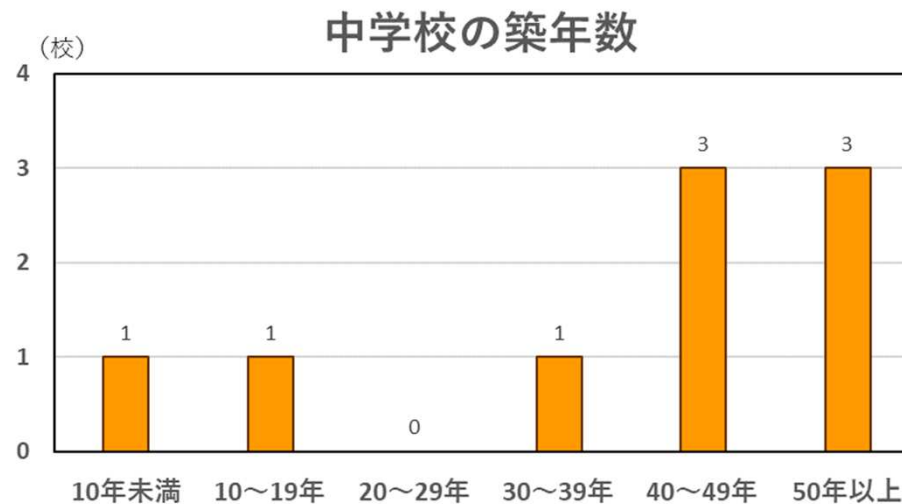


学校施設の老朽化からみる課題

(1) 学校施設の状況

② 中学校

- 9校中3校、全体の33%が築年数50年以上を経過
- 目標耐用年数である80年を半分経過した築40年以上も合わせると9校中6校、全体の67%が老朽化による対策が必要な状況



学校施設の老朽化からみる課題

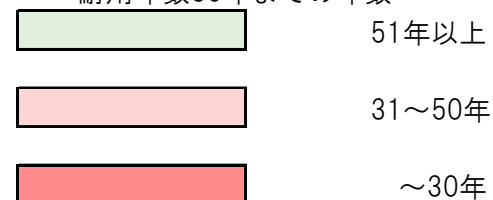
(2) 目標耐用年数と建築年数

●本市では、鉄筋コンクリート造の長寿命化による目標耐用年数を80年と設定

学校名	建築年度		築年数	80年までの残数
米野小学校	昭和44	1969	55	25
篠岡小学校	昭和33	1958	66	14
三ツ渕小学校	昭和36	1961	63	17
北里小学校	昭和37	1962	62	18
村中小学校	昭和39	1964	60	20
味岡小学校	昭和41	1966	58	22
一色小学校	昭和44	1969	55	25
小木小学校	昭和49	1974	50	30
小牧原小学校	昭和50	1975	49	31
本庄小学校	昭和50	1975	49	31
桃ヶ丘小学校	昭和50	1975	49	31
陶小学校	昭和59	1984	40	40
光ヶ丘小学校	昭和62	1987	37	43
大城小学校	平成元	1989	35	45
小牧小学校	平成23	2011	13	67
小牧南小学校	令和3	2021	3	77

学校名	建築年度		築年数	80年までの残数
北里中学校	昭和38	1963	61	19
篠岡中学校	昭和40	1965	59	21
応時中学校	昭和48	1973	51	29
岩崎中学校	昭和52	1977	47	33
桃陵中学校	昭和56	1981	43	37
小牧西中学校	昭和57	1982	42	38
光ヶ丘中学校	平成元	1989	35	45
小牧中学校	平成9	1997	27	53
味岡中学校	平成26	2014	10	70

耐用年数80年までの年数



学校施設の老朽化からみる課題

（４）学校施設の老朽化に対する取組み

- 築60年以上を経過した村中小、三ツ渚小、篠岡小、北里小、北里中については、**早急に検討**を行っていく必要
- 児童生徒数の減少、市の財政が厳しさを増す中にあるのは、**負担を一時期に集中させないために、学校再編等も検討した上で、無理のない建替えを計画的に実施する必要**

＜小牧市教育振興基本計画 P40抜粋＞

将来的な学校規模の適正化に関する調査・研究	小牧市全体の計画である「公共ファシリティマネジメント基本方針」「公共施設適正配置計画」「公共施設長寿命化計画」と整合を図るとともに、方向性を踏まえ、児童生徒数の動向に応じて減築・廃校や統合、分離新設校の新設等を検討します。	教育総務課
-----------------------	---	-------

学校の適正規模・適正配置の基準について

(1) 学校の適正規模

- 法令上、学校規模の標準は、学級数により設定されており、小・中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準とされている。
- 文部科学省が示した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」（以下、「手引」という。）においては、学校規模の標準を下回る場合の対応の目安が次のとおり示されている。

	ア	イ	ウ	エ	オ
小学校	1～5学級	6学級	7～8学級	9～11学級	－
中学校	1～2学級	3学級	4～5学級	6～8学級	9～11学級

ア、イ…学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討（複式学級有り）

ウ…学校統合の適否も含め今後の教育環境のあり方を検討（一部クラス替え可）

エ、オ…児童生徒数の予測等を加味して今後の教育環境のあり方を検討

小牧市の学級数（R15年推計）

学校名	小牧小	村中小	小牧南小	三ツ淵小	味岡小	篠岡小	北里小	米野小
学級数	24	12	23	6	24	6	12	24
対応の目安	－	－	－	イ	－	イ	－	－

学校名	一色小	小木小	小牧原小	本庄小	桃ヶ丘小	陶小	光ヶ丘小	大城小
学級数	15	7	18	12	6	6	6	6
対応の目安	－	ウ	－	－	イ	イ	イ	イ

学校名	小牧中	味岡中	篠岡中	北里中	応時中	岩崎中	桃陵中	小牧西中	光ヶ丘中
学級数	18	15	3	10	17	12	6	6	6
対応の目安	－	－	イ	オ	－	－	エ	エ	エ

学校の適正規模・適正配置の基準について

(2) 学校の適正配置

- 法令上、「小学校でおおむね4km以内、中学校ではおおむね6km以内」という基準を定めている。
- 手引においては、通学時間を1時間以内を一応の目安と提示
(適切な交通手段を確保し、遠距離通学のデメリットを一定程度解消する前提)

通学距離

令和5年度

<小学校>

1 km未満 6,049人 (78.5%)
2 km未満 1,579人 (20.5%)
3 km未満 74人 (1.0%)

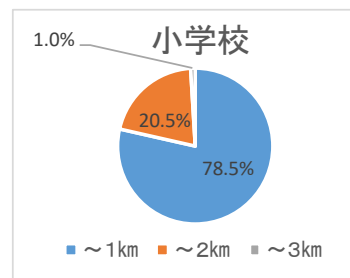
<中学校>

1 km未満 2,216人 (53.8%)
2 km未満 1,750人 (42.4%)
3 km未満 157人 (3.8%)

小学校

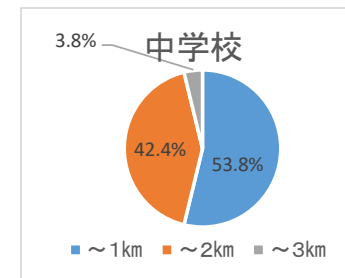
自宅からの通学距離	
～ 1 km	6,049人
～ 2 km	1,579人
～ 3 km	74人
3 km以上	0人

※自宅から学校までの直線距離で算出
※一部の児童生徒は集合場所からの距離



中学校

自宅からの通学距離	
～ 1 km	2,216人
～ 2 km	1,750人
～ 3 km	157人
3 km以上	0人



地区ごとの課題について

(1) 小牧地区（小牧小学校、小牧原小学校、小牧中学校）

＜児童生徒数の減少からみる課題＞

- 地区の特性として、地区の過半が市街化地域であり、人口密度が高いエリアが広がる。
- 他地区と比較し児童生徒数が多く、令和40年度まで**小学校はいずれも全学年3学級以上、中学校は全学年6学級以上**となる見込みである。
- 今後、児童生徒数の減少は見込まれるが、その推移は緩やかであり、上記のとおり**当面の間は適正規模を確保**できるため、早急な対応は必要ないと考えられる。

クラス数

学校名	R5年度							R10年度							R15年度							R20年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
小牧小	4	4	4	4	4	4	24	4	4	3	4	4	4	23	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24
小牧原小	3	4	3	4	4	3	21	3	3	3	3	3	3	18	3	3	3	3	3	3	18	3	3	3	3	3	3	18

学校名	R25年度							R30年度							R35年度							R40年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
小牧小	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24	3	4	4	4	4	4	23
小牧原小	3	3	3	3	3	3	18	3	3	3	3	3	3	18	3	3	3	3	3	3	18	3	3	3	3	3	3	18

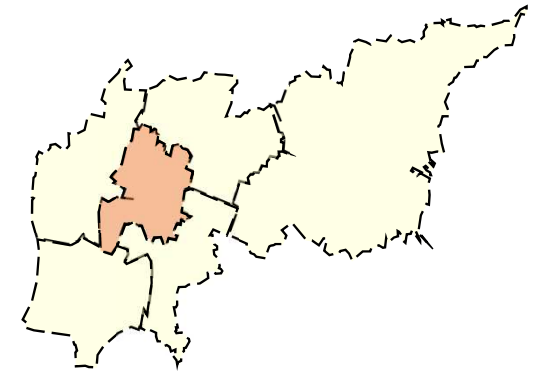
クラス数

学校名	R5年度				R10年度				R15年度				R20年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
小牧中	7	7	7	21	7	6	7	20	6	6	6	18	7	6	6	19

学校名	R25年度				R30年度				R35年度				R40年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
小牧中	7	6	6	19	7	6	6	19	7	6	6	19	7	6	6	19

＜学校施設の老朽化からみる課題＞

- 小牧原小学校は築年数49年を経過している。小牧市の小中学校は昭和40年代から50年代に建設した建物が多く、同時期に修繕・建替え時期を迎えるため、これらの負担を一時期に集中させないために、無理のない建替え計画を策定し、計画的に実施していく必要がある。



施設名	建築年度		築年数
	和暦	西暦	
小牧小学校	平成 23	2011	13
小牧原小学校	昭和 50	1975	49
小牧中学校	平成 9	1997	27

地区ごとの課題について

（２）小牧南地区（小牧南小学校、米野小学校、応時中学校）

<児童生徒数の減少からみる課題>

- 地区の特性として、地区の過半が市街化地域であり、人口密度が高いエリアが広がる。
- 他地区と比較し児童生徒数が多く、令和40年度まで**小学校はいずれも全学年3学級以上、中学校は全学年5学級以上**となる見込みである。
- 今後、児童生徒数の減少は見込まれるが、その推移は緩やかであり、上記のとおり**当面の間は適正規模を確保**できるため、早急な対応は必要ないと考えられる。

クラス数

学校名	R5年度							R10年度							R15年度							R20年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
小牧南小	4	4	5	5	4	4	26	3	3	4	4	4	4	22	4	4	4	4	4	3	23	4	4	4	4	4	4	24
米野小	3	4	5	4	4	4	24	4	3	3	4	4	3	21	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24

学校名	R25年度							R30年度							R35年度							R40年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
小牧南小	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24
米野小	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24	3	3	4	4	4	4	22

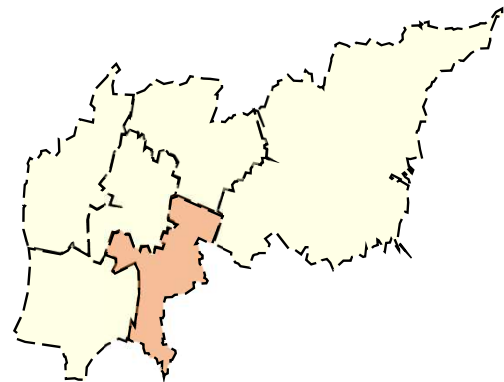
クラス数

学校名	R5年度				R10年度				R15年度				R20年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
応時中	7	7	6	20	7	7	7	21	5	6	6	17	7	6	6	19

学校名	R25年度				R30年度				R35年度				R40年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
応時中	7	6	6	19	7	6	6	19	7	6	6	19	7	6	6	19

<学校施設の老朽化からみる課題>

- 米野小学校及び応時中学校は築年数50年以上を経過しているが、米野小学校は令和7年度から令和9年度にかけて建替え工事を予定している。小牧市の小中学校は昭和40年代から50年代に建設した建物が多く、同時期に修繕・建替え時期を迎えるため、これらの負担を一時期に集中させないために、無理のない建替え計画を策定し、計画的に実施していく必要がある。



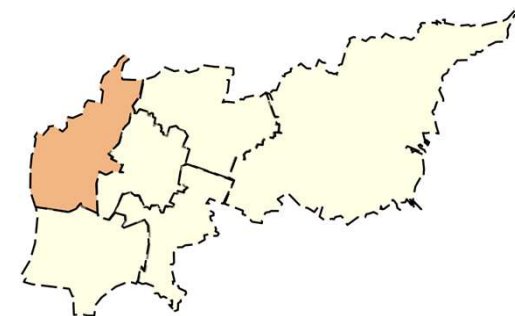
施設名	建築年度		築年数
	和暦	西暦	
小牧南小学校	令和 3	2021	3
米野小学校	昭和 44	1969	55
応時中学校	昭和 48	1973	51

地区ごとの課題について

（３）巾下地区（村中小学校、三ツ淵小学校、小牧西中学校）

＜児童生徒数の減少からみる課題＞

- 地区の特性として、地区内に市街化調整区域が多く人口密度が低い。
- 児童生徒数が少ない地区であり、小学校はいずれも全学年が１学級又は２学級、中学校は全学年が３学級以下である。
- 特に、三ツ淵小学校は令和14年度に全学年１学級に、小牧西中学校は令和12年度に全学年が２学級となる見込みである。両校とも適正標準を大きく下回るため、小規模校の課題の解消策や緩和策を速やかに検討・実施する等の対応が必要である。
- 村中小学校においては、適正標準を満たしているため、早急な対応が必要であるわけではないが、今後、児童生徒数の動向を注視していく必要がある。



クラス数

学校名	R5年度							R10年度							R15年度							R20年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
村中小	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12
三ツ淵小	1	2	2	2	2	2	11	1	1	2	2	2	2	9	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	2	1	7

学校名	R25年度							R30年度							R35年度							R40年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
村中小	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12
三ツ淵小	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6

クラス数

学校名	R5年度				R10年度				R15年度				R20年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
小牧西中	3	2	3	8	2	3	2	7	2	2	2	6	2	2	2	6

学校名	R25年度				R30年度				R35年度				R40年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
小牧西中	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6

＜学校施設の老朽化からみる課題＞

- 全ての小中学校が築年数40年以上を経過している。
- 特に三ツ淵小学校及び村中小学校は築年数60年以上を経過しているため、学校施設整備を早急に検討・実施していく必要がある。

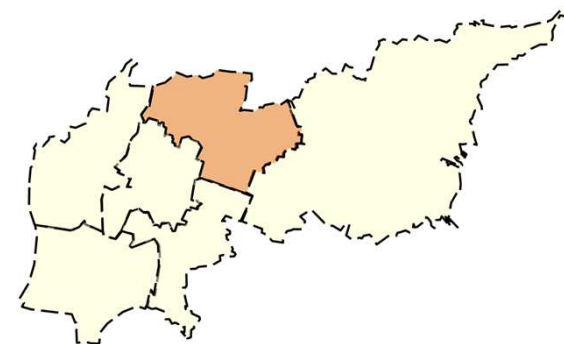
施設名	建築年度		築年数
	和暦	西暦	
三ツ淵小学校	昭和 36	1961	63
村中小学校	昭和 39	1964	60
小牧西中学校	昭和 57	1982	42

地区ごとの課題について

（４）味岡地区（味岡小学校、一色小学校、本庄小学校、味岡中学校、岩崎中学校）

<児童生徒数の減少からみる課題>

- 地区の特性として、市街化区域が過半を占めており、味岡駅を中心に人口密度が高いエリアが広がる。
- 児童生徒数が多い地区であり、令和15年度まで、全ての小中学校において適正標準を満たす見込みである。
- ただし、**岩崎中学校**においては、令和16年度以降は**適正標準を下回る**見込みであるため、**小規模校の課題の解消策や緩和策**を検討・実施する等の対応が必要である。
- また、**一色小学校**及び**本庄小学校**においては、適正標準を満たしているため、早急な対応が必要になるわけではないが、今後、全学年2学級になる見込みであるため、**児童生徒数の動向を注視**していく必要がある。



クラス数

学校名	R5年度							R10年度							R15年度							R20年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
味岡小	5	4	5	5	5	4	28	4	4	4	4	4	5	25	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24
一色小	3	3	3	3	3	3	18	3	2	2	3	3	3	16	3	3	2	2	2	3	15	3	3	3	3	3	3	18
本庄小	3	3	3	3	3	3	18	2	2	3	3	3	3	16	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12

学校名	R25年度							R30年度							R35年度							R40年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
味岡小	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24	3	4	4	4	4	4	23	3	3	3	3	3	3	18
一色小	3	3	3	3	3	3	18	2	2	2	2	2	3	13	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12
本庄小	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12

クラス数

学校名	R5年度				R10年度				R15年度				R20年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
味岡中	7	6	6	19	6	6	6	18	5	5	5	15	5	4	4	13
岩崎中	5	4	4	13	5	4	4	14	4	4	4	12	4	3	3	10

学校名	R25年度				R30年度				R35年度				R40年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
味岡中	5	4	4	13	5	4	4	13	5	4	4	13	5	4	4	13
岩崎中	4	3	4	11	4	3	3	10	4	3	3	10	4	3	3	10

<学校施設の老朽化からみる課題>

- 味岡小学校、一色小学校、本庄小学校及び岩崎中学校は、築年数40年以上を経過している。
- いずれも昭和40年代から50年代に建設した建物であり、同時期に修繕・建替え時期を迎えるため、これらの負担を一時期に集中させないために、無理のない建替え計画等を策定し、計画的に実施していく必要がある。

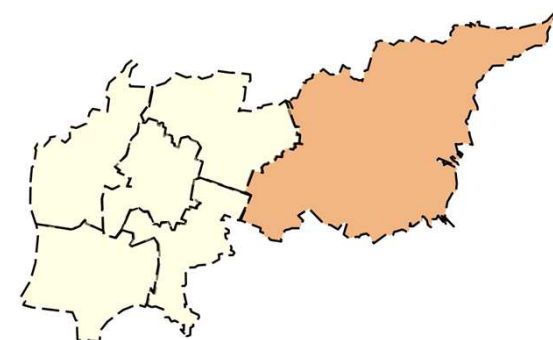
施設名	建築年度		築年数
	和暦	西暦	
味岡小学校	昭和 41	1966	58
一色小学校	昭和 44	1969	55
本庄小学校	昭和 50	1975	49
味岡中学校	平成 26	2014	10
岩崎中学校	昭和 52	1977	47

地区ごとの課題について

（５）篠岡地区（篠岡小学校、桃ヶ丘小学校、陶小学校、光ヶ丘小学校、大城小学校、篠岡中学校、桃陵中学校、光ヶ丘中学校）

<児童生徒数の減少からみる課題>

- 地区の特性として、桃花台ニュータウンは人口密度が高いが、他のエリアは市街化調整区域で人口密度が低い。
- 近年は人口減少が顕著であり、これは桃花台ニュータウンで育った子どもたちが成人期に達する頃から多く流出するためだと考えられ、今後も減少が見込まれる。
- 令和９年度には、**全ての小中学校において適正標準を下回り**、令和14年度に**全ての小学校が全学年１学級**に、令和13年度に**篠岡中学校が全学年１学級**になる見込みである。
- 全ての小中学校が適正標準を大きく下回る見込みであるため、**小規模校の課題の解消策や緩和策**を検討・実施する等の対応が必要である。



クラス数

学校名	R5年度							R10年度							R15年度							R20年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
篠岡小	1	2	2	2	2	2	11	1	1	1	1	2	1	7	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
桃ヶ丘小	2	2	2	2	3	2	13	1	1	1	1	1	2	7	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
陶小	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
光ヶ丘小	2	2	2	2	2	2	12	1	1	2	2	2	2	10	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
大城小	1	2	2	2	1	2	10	1	1	1	1	2	1	7	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6

学校名	R25年度							R30年度							R35年度							R40年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
篠岡小	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
桃ヶ丘小	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
陶小	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
光ヶ丘小	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
大城小	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6

クラス数

学校名	R5年度				R10年度				R15年度				R20年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
篠岡中	2	2	2	6	2	2	2	6	1	1	1	3	1	1	1	3
桃陵中	5	4	4	13	4	3	3	10	2	2	2	6	2	2	2	6
光ヶ丘中	2	3	3	8	2	2	3	7	2	2	2	6	2	1	1	4

学校名	R25年度				R30年度				R35年度				R40年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
篠岡中	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3
桃陵中	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6
光ヶ丘中	2	2	2	6	2	2	2	6	2	1	1	4	2	1	1	4

施設名	建築年度		築年数
	和暦	西暦	
篠岡小学校	昭和 33	1958	66
桃ヶ丘小学校	昭和 50	1975	49
陶小学校	昭和 59	1984	40
光ヶ丘小学校	昭和 62	1987	37
大城小学校	平成元	1989	35
篠岡中学校	昭和 40	1965	59
桃陵中学校	昭和 56	1981	43
光ヶ丘中学校	平成元	1989	35

<学校施設の老朽化からみる課題>

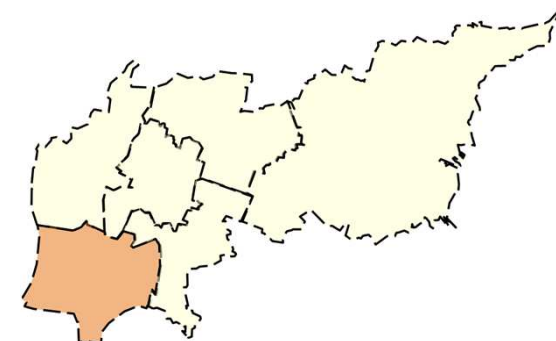
- 篠岡小学校、桃ヶ丘小学校、陶小学校、篠岡中学校及び桃陵中学校は、築年数40年以上を経過している。
- 特に**篠岡小学校は築年数66年を経過**しており、これは小牧市内の小中学校で最も築年数を経過しているため、学校施設整備を早急に検討・実施していく必要がある。

地区ごとの課題について

（６）北里地区（北里小学校、小木小学校、北里中学校）

<児童生徒数の減少からみる課題>

- 地区の特性として、地区の過半が市街化調整区域で人口密度が低い。
- 児童生徒数が少ない地区であり、令和15年度には、小学校はいずれも全学年が1学級又は2学級になる見込みである。
- 小木小学校は令和11年度に、北里中学校は令和14年度に、適正標準を下回る見込みである。
- 特に、小木小学校は令和16年度に全学年1学級になる見込みであるため、小規模校の課題の解消策や緩和策を速やかに検討・実施する等の対応が必要である。
- 北里小学校は、適正標準を満たしているため、早急な対応が必要であるわけではないが、今後、全学年2学級になる見込みであるため、児童生徒数の動向を注視していく必要がある。



クラス数		R5年度							R10年度							R15年度							R20年度						
学校名		小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
北里小		2	2	3	3	2	3	15	2	3	2	3	3	2	15	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12
小木小		2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	1	1	1	1	1	1	7	1	1	1	1	1	1	6

学校名		R25年度							R30年度							R35年度							R40年度						
学校名		小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
北里小		2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12
小木小		1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6

クラス数		R5年度				R10年度				R15年度				R20年度			
学校名		中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
北里中		5	4	4	13	4	4	4	12	4	3	3	10	3	3	3	9

学校名		R25年度				R30年度				R35年度				R40年度			
学校名		中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
北里中		3	3	3	9	3	3	3	9	3	3	3	9	3	3	3	9

<学校施設の老朽化からみる課題>

- 全ての小中学校が築年数50年以上を経過している。
- 特に北里小学校及び北里中学校は築年数が60年以上を経過しているため、学校施設整備を早急に検討・実施していく必要がある。

施設名	建築年度		築年数
	和暦	西暦	
北里小学校	昭和 37	1962	62
小木小学校	昭和 49	1974	50
北里中学校	昭和 38	1963	61